

## 大阪アーツカウンシルの取組みの状況

【取組みの方向性】（大阪アーツカウンシルのあり方について：平成29年11月大阪府文化振興会議報告 引用）

- ①行政と一定の距離を保ちつつ、「評価」「審査」等を行う審議会であるため、**自らが文化事業を実施するものではない。**
- ②大阪で活動する文化芸術の担い手を更に支援していくため、**助言やサポート等、現場の視点に立った、細かなレベルでの取組みを強化**していく必要がある。
- ③引き続き「評価」「審査」を中心としつつ、「調査」や「企画」を強化して、取組み内容の質を高めていくとともに、それらの**取組みについて積極的に発信**していかなければならない

## OH30～R2の主な取組み実績

機能	各機能の内容・進め方(あり方報告)	取組み内容	主な取組み状況	文化振興会議意見 (事務局(案))
評価・審査	「評価」「審査」は、行政と一定の距離を保ちつつ、公平性及び透明性を確保しながら実施していくことが重要である。	府市文化課所管事業の検証・評価等	<p>○<b>府市全事業について担当者ヒアリング及び現場視察を行い、PDCAサイクルに基づいた評価シートを作成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各年度における事業の検証・評価件数 【H30】40事業（府16、市24） 【R1】38事業（府15、市23） 【R2】37事業（府14、市23）</li> </ul>	○文化芸術の専門家による組織を構築し、事業の検証・評価及び補助金事業採択審査等を着実に実施しており、大阪の文化行政の質の担保と向上に寄与している。
		府市補助金事業の採択審査・実地調査	<p>○<b>補助金事業の採択審査及び実地調査(視察)を実施</b> (府:大阪府芸術文化振興補助金、輝け!こども!フォー-マ-事業補助金、市:大阪市芸術活動振興事業助成金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各年度における審査件数 【H30】258件（府65、市195） 【R1】328件（府60、市193） 【R2】395件（府75、市249）</li> <li>●各年度における採択件数 【H30】186件（府34、市148） 【R1】239件（府39、市152） 【R2】267件（府31、市200）</li> <li>●各年度における実地調査回数 【H30】182回 【R1】161回 【R2】105回</li> </ul> <p>※実地調査時にはヒアリングを実施し、専門性を活かしたアドバイスも行っている</p>	○事業の検証・評価について、対象を指定管理者による運営事業も含む全事業に拡大するとともに、文化振興計画における位置づけを踏まえながら評価を実施している。 ○補助金の採択事業について、実地調査(視察)、ヒアリングを行うなど、鑑賞者等の視点も踏まえながら、現場に寄り添ったきめ細やかな担い手支援を実施している。
調査	「調査」は、大阪の文化を取り巻く環境が複雑化・多様化し、大きく変化する中で、ますます重要な役割を担っているため、大阪の文化に関する基礎データやアーティストのニーズの把握等の調査に、積極的に取組んでいくこととする。	事業調査	<p>【H30】大阪府内における公立文化施設等にかかる調査 (H30.9.14～11.20) [対象:81施設]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●目的:文振計画を実現するため、文化芸術活動の拠点となる公立文化施設の現状等を調査。</li> <li>●結論:市町村や施設の垣根を越えた、ノウハウや課題の共有が、大阪の文化芸術の発展に寄与する。</li> </ul> <p>【R1】芸術文化における補助金・助成金等に関する調査 (R1.11.29～12.13) [対象:16都道府県及び20政令市]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●目的:府市補助金制度の改善を図るため、全国及び大阪の補助金制度の現況を調査。</li> <li>●結論:採択審査を行うには、申請者の活動意図を把握する必要があり、そのための仕組みづくりが重要。</li> </ul> <p>【R2】新型コロナウイルス感染症拡大影響下における50人未満のアート拠点ピックアップヒアリング調査 (R2.6～7) [対象:13施設]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●目的:感染症拡大影響下において取組みを実施していくにあたっての知見を得るため、収容人数が50人未満のアート拠点(小さい場所)への影響を調査。</li> <li>●結論:全ての施設に経営悪化等の影響がみられた。また、小規模だからこそ思い切った方向転換や営業方法の試みなどの創意工夫がみられた。</li> </ul> <p>【R2】新型コロナウイルス感染症拡大影響下における大阪府内の公立文化施設のネットワーク状況調査 (R3.1.13～1.25) [対象:412施設]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●目的:コロナ禍における公立文化施設間の連携状況や課題等について調査。</li> <li>●結論:コロナ禍においても施設間の新たな連携は伸び悩んでおり、アーツカウンシルのような中間支援組織の「つなぐ」機能が重要。</li> </ul> <p>【H30～R2】大阪芸術文化交流シンポジウム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●テーマ:「一世代を超えて「演劇」課題を共有できるのか。現代演劇づくり手の視点から-」(H30) 「-大阪から「美術/アート」を拓く-」(R1) 「人と地域を育み・つなげる場:公立文化施設の現場から」(R2)</li> </ul> <p>※その他:他機関との協力による調査の実施、公式HPやSNSで調査結果の公表等</p>	○取組みの方向性に基づき、独自の視点から迅速な調査活動を展開し、調査結果を公表することで文化芸術関係者の活動に寄与している。 ○調査結果を基にシンポジウムを開催する等、新たな課題を指摘するとともに、広く情報共有と啓発の機会を提供している。 ○調査をはじめとした大阪アーツカウンシルの活動について、企画機能の活用等を通じたさらなる認知度向上が求められる。
企画	「企画」は、より効果を高めていくため、調査結果等も踏まえつつ、大阪で活動する芸術文化の担い手へのサポート等の現場支援や、芸術文化を活かした社会課題への対応等に係る新たな施策の企画の提案等について、重点的に取組んでいくこととする。	提案等	<p>【R1】府市文化事業に対する提案 (R1.5.7)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.人材育成(若手プロデューサー等への海外研修、行政職員への文化に関する基本的な研修)</li> <li>2.補助金・助成金制度の改善(大阪の芸術文化がより活性化する形態・仕組みへの見直し)</li> <li>3.事業評価制度の改良(アーツ・府市・事業関係者による対話、成果共有)</li> </ol> <p>【R2】コロナ禍における大阪の芸術文化への支援に関する提言 (R2.6.29)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.公立文化施設等に対する支援(困窮度合いの把握、ワンストップ窓口の設置)</li> <li>2.民間事業者等に対する支援(活動継続支援、芸術家や文化団体の活動の表彰)</li> <li>3.子どもの芸術文化活動に対する支援(学校教育で活用可能な芸術系教材の制作)</li> </ol>	○社会課題への対応等について実質的な提案を行っており、大阪の文化振興において重点的に取り組んでいくべき方向性を示している。
		他機関との協力企画等	<p>○<b>enocoとの連携(協力)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域イベントへの相談窓口の設置【エのこdeマルシェ】(H30～R1)</li> <li>・オープンミーティングへのパネリスト参加【おおさかアートモンス】(H30～R2)</li> </ul> <p>○<b>大学との連携(協力)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座等へのパネリスト参加【相愛大・大阪市大】(H30～R2)</li> </ul> <p>○<b>行政機関との連携(共催)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の文化関係者間の交流促進【おでかけアーツカウンシル】(R2)</li> </ul> <p>○<b>他地域アーツカウンシルとの連携(参画)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国組織である「アーツカウンシルネットワーク」への参画【他地域アーツカウンシル】(R1:オブザーバー参加、R2:-正会員)</li> </ul> <p>※その他:他機関との協力による調査の実施(再掲)</p>	○様々な機関と連携し、大阪で活動する文化芸術の担い手へのサポート等の現場支援を実施している。今後より多様な機関との連携を深めていくことで、さらなる発展につながることを期待される。 ○地域単位の交流活動にも焦点を当て、地域の文化関係者の交流促進や、情報提供を今後より一層拡充していくべきである。